

第1節 災害と防災

災害

吉川村は、物部川下流に発達した扇状地性平地であり、北東部の九六山周辺の丘陵地以外は平坦な田園地帯である。しかも平地の地盤が低いことから、台風や集中豪雨による冠水や高潮などによる被害を受けやすく、昭和四十五（一九七〇）年八月二十一日に來襲した台風一〇号の被害や平成十（一九九八）年の集中豪雨では大きな被害を受けた。

〈平成十年・集中豪雨（九月二十四～二十五日）〉

九月二十三日から二十四日にかけて、前線が四国の南海上から瀬戸内付近に北上し、二十五日朝まで停滞した。この前線に向かって高気圧の縁を回る暖湿気流が流れ込んだため、高知市及びその周辺で二十四日を中心に長時間にわたって激しい雨が降り続いた。高知市では一時間降水量一二九・五ミ、二十四日の一日降水量六二八・五ミという記録的な豪雨となり、各所に甚大な被害が発生した。「高知豪雨」の名で呼ばれるこの集中豪雨による県内の被害は、死者八人、負傷者一四人、住宅全壊二五棟、半壊二九棟、床上浸水九四三五棟、床下浸水七八一八棟にのぼった（『防災白書』）。

吉川村では、物部川河口海岸が六〇〇坪にわたり流失したほか、烏川の堤防復旧工事業に対し国の第三次補上浸水一七棟（吉川小学校及び北部集会所一部床上浸水）、床下浸水一〇四棟、田畑冠水一〇〇畝、道路陥没三

か所、河川決壊四か所などの被害が出た。災害復旧については、烏川の堤防復旧工事業に対し国の第三次補正予算で一億五〇〇〇万円が計上、災害査定による一億一〇〇〇万円が予算化され、平成十年度に災害復旧費三億円が交付されたほか、災害を受けた改良住宅一五戸及び北部集会所が災害認定を受けた。